

# サスマタで不審者に対応

## くろしお保(親)で園児、職員が訓練

御坊署と美浜町和田、独立行政法人国立病院機構和歌山病院内くろしお保育所は合同で17日、同保育所内で不審者対応訓練を実施。園児の避難誘導、警察への通報、サスマタなど職員と署員が連携し、犯人逮捕までの迅速な対応を再確認した。

保育所と病院職員約10人、園児23人(1歳児から5歳児)、御坊署員7人が参加。不審者が保育所に侵入したとの想定。マスクをして不審者に扮した御坊署員が入口から保育所内に侵入。うろろろしている不審者に対し、保育所職員が2人で対応。不審者は「知り合いの子おるんや」と話し、ナイフを出したため、すぐに緊急通報するブザーを鳴らし、病院管理課と警察へ連絡。園児を避難させつつ、数人の職員

がサスマタや松葉かきをずるクマデなどで不審者と対峙。通報を受けた御坊署員が到着し、不審者を確保した。

森山浩志・生活安全刑事課長は「素晴らしい連携で、ありがたい訓練だった。」

た。訓練を通じて職員、関係機関と連携し、ケガのないように犯人を逮捕するようになりたい」と講評。毎月防犯訓練を実施している同保育所の鳴海潤子園長は「どう子ども達を守ればよいかを考えさせられた。絶対に園舎に入らせないと必死だった。ブザーを鳴らしたの訓練は初めてだったので、できて良かった」と話した。



サスマタで不審者と対峙する職員ら